

ゴギ生息状況調査

(ホシザキグリーン財団委託研究)

福井克也・佐藤勇介・金元保之

1. 研究目的

中国地方に生息するイワナの亜種であるゴギ *Salverinus leucomaenis imbrius* は、主として島根県の河川に生息する。近年、自然林の伐採や河川改修工事等により、その生息地や生息尾数の減少が危惧されており、しまねレッドデータブックにも絶滅危惧Ⅰ類として掲載されている。一方、溪流釣りの対象魚としての人気も高く、漁業権対象魚種となっている河川もあり、本種の保護や増殖に取り組むことは、地域固有種の保全のみならず、内水面漁業の振興を図るうえでも重要と考えられる。本調査はゴギの保護と保全方策を考えるための基礎的な情報の収集を目的とし、高津川水系におけるゴギの生息状況（生息密度、全長組成）を調査した。

2. 研究方法

調査は平成 29 年 12 月 7 日から平成 29 年 12 月 15 日にかけて、高津川 5 支流の源流部を対象に電気ショッカーを用いて行った。ゴギの判別は、本種の特徴である頭部の白斑の有無によって行った。採捕後、麻酔処理 (FA100: 田村製薬株式会社製) を行い、全長、体長を測定し、覚醒後に速やかに放流した。また、採捕終了後にメジャーにより調査区間の河川長と流れ幅 (20m ごと) を計測した。

調査区間における生息尾数の推定は、調査区間の河川面積を基に 1m² 当たりとして生息密度を算出した。

3. 研究結果

調査は高津川水系では 5 支流 8 地点で行い、全ての調査地点でゴギの生息が確認された (別表 1)。調査期間中、降雪に影響により、目標とした調査地点まで到達できなかった河川が多く、調査地点の標高は 340~590m の範囲であった。採捕されたゴギの平均全長は、126~163mm で、生息密度は 0.01 尾/m²~0.09

尾/m²であった。採捕されたゴギのうち、全長 100mm 以下の小型魚が含まれたのは 2 支流 3 地点で、再生産が行われていると推察されるが、残りの 3 支流 5 地点では小型の個体が採捕されておらず、再生産の状況について確認することはできなかった。ゴギのほかに確認された魚種は、ヤマメ、タカハヤであった。今年度調査した河川のうち、福川川支流の右ヶ谷川は、島根県内水面漁場管理委員会の指示により、ゴギの保護区と定められているが、降雪の影響により、源流部まで到達できなかったことから、ゴギ採集数はあまり多くなく、生息密度も 0.02 尾/m²と低い値であった。禁漁による保護効果について検証するため、再調査が必要であると考えられる。

高津川水系では河川勾配が急になる源流部にゴギの生息数が多いが、このような場所は、砂防堰堤が設置されており、砂防堰堤の間ごとにゴギの集団が封じ込められている状況にある。また、砂防堰堤により、河川への土砂供給量が減少した結果、河川内にゴギの隠れ場となる大型の転石が殆ど存在しない場所も多数見受けられた。ゴギの生活環境を保全するためにも、今後は魚類の生息に配慮した河川工事を行う必要があると考えられる。

4. 研究成果

本調査は (財) ホシザキグリーン財団の平成 29 年度委託研究として実施した。調査で得られた結果の詳細について財団に報告を行った。